



武蔵野市水環境連続講座「水の学校」2018 開校！

「水の学校」は、市民のみなさんといっしょに、水を知り、考える連続講座です。くらしの中の身近な水循環、下水道の役割や、水に親しみ水を楽しむ知恵、そして世界規模の水課題、地球規模の水循環まで、水を取りまくさまざまなテーマをとりあげ、楽しみながら考えを深め、行動へつなげます。2014年度からスタートし、5年目を迎えました。

連続講座レポート

第1回 「水の学校 2018」開校式

～もっと知ろう武蔵野の水、考えよう水とくらしの深い関わり

2018年6月9日、平成30年度の水の学校連続講座が始まりました。開校式では、松下玲子武蔵野市長から受講生の皆さんへ激励の言葉が贈られ、続く第1回講座では昨年度までの修了生である水の学校サポーターがリードする「むさしの水クイズ」、橋本淳司名誉校長の講演と水循環を体験するアクティビティが行われました。（事務局）

スタートは「むさしの水クイズ」！

レポーター：水の学校サポーター良島さん

受講生とサポーターの一部が参加し、2人1組になって『武蔵野市民が一日に使う水道水の量はどれくらい？』『コップ一杯（180ml）の牛乳を魚が住める水にするにはどれくらいの水が必要？』など、身近な水に関する4択クイズ（7問）に取り組みました。

設問ごとに各解答（A・B・C・D）の標がある所へ移動するという、リラックスした雰囲気の中で進行しましたが、問題によってはかなり迷っているペアも見受けられ、全問正解は1組だけでした。

受講生の感想は「楽しかった」「簡単なようで意外と難しい」「良い問題で勉強になった」等々の声が多くきかれましたが、中には「魚にも汚水に強いのか、弱いのかいる。種類を特定してほしい」とか、「水量の単位が未だピンと来ないので……」などの声もありました。

サポーター達による各問に対する解答・解説も詳しく、講座の導入部としては好評だったと思います。

自分（あなた）の名前は水っぽい？

続いて橋本名誉校長から、漢字の成り立ちと世界の水問題についてお話があり、また、受講生同士で自分の名前に「さんずい」や「橋」など、水にかかわる漢字が含まれているか書き出しながら自己紹介をしました。

人類の生活の歩みと水とは古くから深い関わりがあり、漢字にはそうした水との関わりを反映しているものが多くあります。水は命にかかわるものとして時の為政者にも重要視されてきたことがわかります。



「ブルートラベラー」で水の旅を体験

レポーター：水の学校サポーター佐藤さん

講座の締めくくりのアクティビティでは、受講生自身が水の分子となって、水のある場所を旅しました。それぞれの旅先に置いてあるサイコロをふりながら、自然界と人工物の様々な場所をめぐる水の循環を体験しました。旅の後、旅の記録シートで旅の思い出を話し合いました。中には、5回連続で『海』と『雲』にとどまった受講生や最後にふったサイコロでめでたくスタート地点へ戻った受講生もいて、自身の旅との違いを知り、様々な水の循環があることを理解できたと思います。

受講生の感想は「おもしろかった」の声が多くよせられました。また、「水の大切さを実感して、『水のめぐみ』、『水のめぐり』が心に響きました。短い言葉ですが、水を表現する適切な言葉です。」というコメントもありました。水の分子の迷子を出さないようにするサポーター達のガイド役もよかったと思います。

受講生の声より

- これまでよく知らなかった水に関する知識をいろいろと興味深く知ることができた。今後も引き続き知ることができると思うと、わくわくした気持ちになる。
- むさしの水クイズは難しかった（どこかできたことはあったのに…クヤシイ！）
- ブルートラベラーのゲームが面白く、興味深かったです。水には多様な流れがあることを知りました。「川」が好きなので参加しましたが、それをきっかけに人と水について、地球と水について考えが深められればと思います。
- ブルートラベラーが印象的でした。その場所に水がとどまるという時間経過も分かるという学びがおもしろかったです。また、人工物の施設には水がとどまることが少ないということが改めてわかりました。
- 水の動きについて体験的に実感できた。もう少し座学をおおくしてほしい（専門的に）

ステップアップ講座
レポート

6/20
(水)

「武蔵野台地の地下水の動きと

私たちの身の回りの水循環」

講師：八千代エンジニアリング（株） 吉田広人さん



水の学校では、連続講座の受講生と修了生を対象にした「ステップアップ講座」を不定期に実施しています。講座を通じてみなさんの関心が高かったテーマを選び、専門家や市の担当者からのより詳しい解説を行い、参加者と質疑応答・意見交換を行います。今回は、サポーターの内田さんの案内による井の頭池付近の現地視察ののち、八千代エンジニアリング（株）からお招きした地質の専門家に地下水についてお話をうかがいました。

レポーター：水の学校サポーター 檜村さん

前半は、雨模様の中、内田サポーターの案内で、井の頭恩賜公園内を井之頭公園駅からひょうたん橋、七井橋、弁天橋、辨財天、お茶の水経由で七井橋通りまで散策しました。池は、神田川上水の水源で、だいぶ少なくなりましたが、50m崖線からの湧水が流れ込んでいます。この池で泳いだ経験をもつ参加者もおられました。池の周囲は、杉等の水源涵養林でしたが、戦後、染井吉野が植えられました。水質汚染がすすんだことから、3回のかいぼりの結果、水質が改善し、イノカシラフラスコモが再生しました。

後半は、八千代エンジニアリング吉田様から、武蔵野台地の地下水を学びました。地表から浸み込んだ水は、地下水として、地下3000mの岩盤までの間にいくつもある水を通す砂礫層の砂礫の間を、傾斜に従って東方向に早いところで2m/日の速度で流れおり、崖線から湧水となるほか、深い地下水を水道として利用しています。河川の水量、湧水量に関係する地下水面の高さは、

地表から浸込む水の量に影響を受けるとのことです。

参加者からは、「地形、地質、地下水の関係等地下水の知識を深められた」「参加して良かった。また参加したい」「井の頭公園についての知識を深められた」「科学的な説明で面白かった」といった声のほか、「地下水は水道管のようなところを流れるとイメージしていた。聞いた話は忘れないように誰かに伝えます」というコメントもありました。

私自身にとっては、地下水も流れがあり、加わる圧力によっては自噴する、断層ができると水を通さない粘土層ができ、水脈が止められることがあるとのお話が印象的でした。参加者の子ども時代の思い出として話題になった、「昔あった湧水を利用した井の頭のプールは10分位しか入れない」「昔の池は、落ちると茂っている藻が足に絡み、危険だった」との声も新鮮でした。今みたいな機械がない江戸期の人々が正確な地理等を把握していたことを知ることができ、驚きました。案内役の内田さん、講師の吉田さんに改めて御礼申し上げます。

水 コラム no.26：市内の水スポット、知っていますか？

市内には意外と知られていない？水スポットがあります。

● 水辺のある公園・施設

昨年、水の学校で発行したガイドマップ「武蔵野市水のほそみち紀行」では、武蔵野市内の水辺のある公園・施設を紹介しています。ぜひご利用ください。

● 市立小学校のビオトープ

ビオトープとは、地域の動植物・昆虫・鳥・魚などが共生できる生物生息空間を、保全・造成または復元した場所です。武蔵野市では市立小学校12校全校に整備されており、水辺のある空間となっています。（水は水道水を利用しています。）

市立小学校のビオトープの活用事例など詳細は市公式ホームページをご覧ください。

http://www.city.musashino.lg.jp/kurashi_guide/sho_chugakko/shisetsu_seibi/gakko_seibi/1007018.html



PDF版がこちらから
ダウンロードできます！▶

サポーター活動報告

- サポーターミーティングを実施し、今までの活動報告や今後の活動などについて話し合いました。（1/27、2/28、3/11、4/20、5/25）
- サポーター有志の湧遊会では、都内の湧水めぐりを実施し、水辺環境の現状を見てまわりました。（3/27、3/30、4/13、4/28、6/13）
- 女子大通りで現在使用されている下水道幹線の更生工事の見学を行いました。（12/19）

「水の学校サポーター」とは？：2014～17年度の連続講座修了生で構成する、水に関する自主活動や「水の学校」の企画・運営を行うグループです。